

平成 25 年度 第 6 回 仙台市震災復興メモリアル等検討委員会

日 時 平成 26 年 3 月 24 日 (月) 16:30~17:30

会 場 市役所本庁舎 2 階 第 5 委員会室

出席者 稲葉雅子委員、大草芳江委員、大滝精一委員、木村彩香委員、佐藤正実委員、高橋あゆみ委員、高橋悦子委員、増田聡委員、間庭洋委員、宮原育子委員、村上タカシ委員、本江正茂委員、

議 事 1 開会

2 議事

(1) 東部沿岸地域視察を踏まえた意見交換について

(2) その他

3 閉会

配布資料 資料 1 東部沿岸地域視察について

資料 2 平成 26 年度 震災復興メモリアル等検討スケジュールについて

○宮原委員長

只今から第 6 回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会を開催したいと思います。最初に本日の議事録の署名委員の指名でございますが、本日は大草委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○大草委員

はい。

○宮原委員長

それでは議事に入ります前に定足数と資料の確認につきまして事務局の方から報告をお願いします。

○事務局 (梅内室長)

はじめに出席者の皆様でございます。本日は現在 11 名の皆様にご出席をいただいております。間庭委員は間もなくご到着と聞いておりますので、全 12 名の方でということで定足数を満たしているということでご報告をさせていただきます。続きまして資料でございます。お座席に本日の座席表、次第、資料の一覧と今日の視察へ行かれた方は資料 2、行かれていない方については資料 1 と 2 を置かせて頂いております。先程午前中から全 10 名に皆様にご出席を頂きまして、現地を視察しております。資料 1 をおめくり頂きますと、工程が出ておりますが、長喜城の居久根、荒浜小学校及び周辺の基礎群の調査。そして、新浜地区の居久根の状況を視察しまして、蒲生北部地区、海岸公園の冒険広場、藤塚地区と回って本日ご参加を頂きました。この内容につきましては、委員長からご説明があらうかと思っております。資料に過不足ございませんでしょうか。

○宮原委員長

ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。議事の一番目ですが、東部沿岸地域視察を踏まえた意見交換ということになります。今日、朝 10 時から市役所をスタートしまして今梅内室長からご案内がありましたように、午前中、午後とそれぞれ地域を回らせて頂きました。現場でも委員の皆さんが活発な意見交換をされております。今日はこの視察を踏まえまして皆さんのご意見、ご感想などの意見交換を行いたいと思います。ただ、今日は視察にいらっしやれなかった委員の先生もいらっしやいますが、どの様な観点からでも結構ですのでご意見をいただければと思っております。今日は台本にはあいうえお順と書いてありますので稲葉委員の方

から、お一人3分程度でということですのでよろしくお願いします。

○稲葉委員

皆様お疲れ様でございます。今日は、私は午前中から視察に参加をさせて頂きました。幾つか感想があるのですが、荒浜小学校については思ったよりもきれいだなという感じがしまして、参加者の中からも「塗装をし直したのかな」というお話もあったのですが、外から来た方が「わー大変」と見るものではないのかもしれないのですが、専門の先生からもこんな風に強度が大丈夫という話とか、そういったことも聞いて改めて何か見に行く場所にしてもいい所なのではないのかなという気がしました。いろんな思いがあると思うのですが、改めて仙台市内に住んでいるのになかなか仙台市内を見る機会がなくて、今日は荒浜もそうなんですが冒険広場なども見まして、仙台市内にいるからこそ何となくこっちにいると忘れてしまいそうな所を、これだけの距離しかないのになかなか足を向けられないなということのを反省しました。そういった意味も含めていくつかのスポットを残しつつ、そこに至るまでのルートを、今日どなたでしたっけね、ループル仙台みたいな形でルートを作ったらいいのではないかなという話も出ていましたが、せっかくであれば残す場所、見て欲しい場所に足を向けるルートもつくれたらいいのではないかなという気がしました。帰ってきて遠くの被災地には行っているのですが、近くの仙台市内はなかなか行かなかったなと反省を踏まえながら今戻って参りました。

○宮原委員長

ありがとうございました。それでは次は大草さんの番になりますが、多分大変だと思いますので、今日いらっしゃった先生方のご意見が終わった後からお3方からお話を伺いたいと思います。それをお聞き頂いてからということですのでお願いします。では飛びまして木村委員さんお願いします。

○木村委員

今回1日私の方で回らせて頂いたのですが、やはり一番印象的だったのは最初の荒浜小学校へ行った時に、大体被災を受けた建物というのは前提で分かってはいたのですが、それを実際にこれから残していった時に、残していくうえでの課題というのがすごく多いということが一番の気付きでして、例えば塩分が浸透していくことをどのように化学的な面で止めるための技術であったりとか、建物の崩壊を見た時に大丈夫かなと思っても実際に被災を受けた状態で残していくことの難しさという面では課題がものすごく多かったのかなという風に感じています。また、それを実際に管理していく方々というのがどの様に運営していくのかという事も含めて考えていかなければならないんだなという風に思いました。また、冒険広場さんの方に伺った時には、一つの広場だけというスポットのみならず、まわりの松林であったりとか、まわりとの関係性とともにもど様な地域の方であったり、地域以外の方が巡って下さるような地になるのかということ、一概に視察だけでは決められないんだなという風に思ったのが2点大きな気付きとしてありました。以上です。

○宮原委員長

ありがとうございました。続きまして佐藤正美委員さんお願いします。

○佐藤正美委員

私は蒲生とか荒浜というのは何度か訪れたことがあった地域なんですけど、今日回ってみて例えば3.11被災地ツアーなどに、もしこれを活用するとすれば、非被災地の方々がどういう風に感じられるのか、という感じで見て参りました。そういった場合に、深沼や蒲生という風に伝えた時にももとのまちがどこだったのかという、やはり被災後のまちの様子だけをお伝えしたのでは多分伝わらないだろうなと思ひまして、そういった意味では被災前のその地域の様子や写真も含めて地域に住んでいた方々の話を含めどういふ風に伝えると一番分り易くまちの特色やまちの成

り立ちなど伝えることができるのかという事を感じていました。今日、震災ツアーの目線で見えてきたという話はしてきましたが、例えば今日回った藤塚の五柱神社とか、蒲生地区の高砂神社、その神社そのものはここにあった、こういう形に今は残っているというのは分った、その神社自体はまちの人達にとってどんな役割があったのか、どうしてここにその神社が必要だったのかとかもし含まれれば尚更ツアーというものを考えた時に自分達の一瞬でもそのまちの人達になれる、非被災者の方々が「なるほどこういう意味でこのまちにこの神社が、この様な生業があるのか」ということが分ってくれるのではないかなということを感じました。それは、大手メディアが伝える大見出しみたいな伝え方ではなくて、パーソナルメディアが伝える小見出しの数とか、そういったものをなるべく多く伝えることを改めて感じました。

○宮原委員長

ありがとうございました。それでは、高橋あゆみ委員さんお願いします。

○委員

私も視察をしてきたのですが、去年佐藤正美委員のツアーに私自身が参加してきましたのですが、それと比べて今日感じたことは、前にツアーに参加した時は小学校の上に上がり本当に下の道路を歩いていくというツアーだったのですが、今日は高台からまち全体を見るという所に行って、まちを俯瞰してみるとこの大切さをすごく実感をしました。上からも見るし下からも見るし、この融合がすごくいいなと思っていて、下流から見ることリアルに津波が来た高さをすごく感じられるし、これからどういうまちを作っていったらいいのだろうねということが、上からみんなで議論しながら出来るというのはすごくいいなと実感しました。あとは、やはり部分だけ切り取っても意味がないなと感じた所もありまして、木村委員が先程仰っていたのですが、遊び場だけ残してもそのまわりとの融合というのは考えていかなければと思いました。本日、仙台市役所の方々に解説をして頂いたのですが、復興の計画の話を支えというか、こういう意図で計画を今やっているんだよというような、意図がしっかり分ることが私にとって今日は意味があるなと思っていて、住民の方々の被災の体験のリアルな話も聞きつつ、今後の復興計画についても話す、それを融合していくというか、ツアーに住民の人がもしやるとしたら住民の方もいらっしやるし、今後復興計画を考えていく人もいるしという様な色んな組み合わせをしていって伝えていくというのが一つ価値があるのではないかなと感じました。以上です。

○宮原委員長

ありがとうございました。それでは高橋悦子委員さんお願いします。

○高橋悦子委員

ちょっと日焼けしたかなと思っています。とてもいい天気でしたのでホッとした所もあるのですが。海岸公園の蒲生地区から始まり藤塚まで色々別の視点で見せて頂いたんですが、進んでいるなと思う所と、でもこれをもう一回ひっくり返して計画を進めていくんだらうという風なちょっと思われるところが私の中にありました。それぞれの場所として段々片付けられて寂しいと思うのと、進んでいるぞというちょっと複雑に思う部分があったのですが、それぞれの場所としての役割というものが、また改めてあるんだなという風なことを感じましたし、その役割を今日歩いたことでちっちゃな事からでもいいから見つけ出し、その点をつないでいくという役割を果たさなければいけないかなという風に思いました。そのために、色んなそれぞれの委員が、委員だけではなくて、市民の方々が色々な活動をしていると思うのですが、そういう情報などを集めてちょっとした点だと思ながらも線につなげていく、そのことをしっかりと考えながら沿岸部の事をつくっていけるような、一緒に育ち合っていくような状況を作り上げていく必要があるなとまた改めて思いました。ありがとうございました。

○宮原委員長

それから飛びます。村上委員さんお願いします。

○村上委員

今日は、バスで色々と回りまして、やはり荒浜小が、何度もあの場所に行ってはいるのですが、中に入ったのは初めてだったのですが、中に入ってみると痕跡が残ってしまっていて非常に強い衝撃を受けました。あの場所は1階を回ると陥没して壁が圧迫されている黒板の跡であるとか、非常にリアルな天井のむき出しの設備の部分であるとか、あのようなものは是非残してもらいたいなと思いました。具体的には1階、2階なんかもそのまま3、4階位を色んな写真であつたりとか震災遺物を含めた展示空間になって、またあの辺は高台がありませんので、今日も屋上に上って見せてもらいましたが、全体が見渡せる訳ですよ。そういう場になれば非常に震災遺構としては有効ではないかなと感じました。また、色々と案内をしてもらった中で、地下鉄の東西線が出来ますし、駅からのアクセスとかどうしたらいいのかというのがありましたが、市で今展開されている赤い自転車のレンタルサイクルとか、あのようなものを設置してもらおうとか、巡回バスで今、語り部バスであつたりとか語り部タクシーとか色々あるかと思しますので、そういう巡回する方法を色々考えていけば一つの社会観光として復興地を回れるような仕組みというのが出来るのではないかなと思いました。また、冒険広場も重要な場所だという風を感じました。具体的に現地で体験された方の話も聞きましたし、遡上ラインのロープが張られているところであつたりとか、具体的な話を直接聞いたので分るのですが、やはりそれがパッと行っても分る様な仕掛けといいますか、サインとか、あるいは現地に行ってボタンを押すと案内が出るみたいな仕組みであるとか、そんなに難しいことではないと思うのですが、そういう見せ方、示し方みたいなものがあるといいのではないかなと感じました。やはり残していく事とか示していく事というのは重要な事だと思いますし、実際に四川の大地震なんかはまちごと残している様なところがあって、そこが今社会観光の場で多くの人が行っているような事例もある訳なんですね。そういう世代を超えて伝えていくとか、そういうことをこれから議論していけばいいのかなと思います。また、具体的な語り部のアーカイブとか前回も出ていましたが、それに伴う様な、たとえば今であればスマートフォンのアプリで現地に行くとガイドが聞こえるとか色んな方法があると思うのですが、そういうことを含めて今日実際に見て、多くのことに気付きましたし、またこういう所に昔あった地域の人達が大事にしている神社であるとか、そういったところにモニュメントみたいなものが欲しいとか、いろんな話も聞きましたし、必要なものというものが見えてきたという感じでした。

○宮原委員長

ありがとうございます。それでは本江委員さんお願いします。

○本江委員

今日、改めて見せていただいて、具体的なデザインの課題が沢山あがってきていましたが、まず大きい感想でいくと、なにより広いなと思いました。しかし広い割にはどこにいるのか見失わないでいられるというのが逆に印象的でした。説明的に言うと、山並が見えていて、まちのスカイラインがあつて東北道路があつて県道があつて運河があつて海岸線があつて水平線があるという、山から海までずっと並行して織物でいえば縦糸にあたるものが乱れずにあつて、それを行き来しながら行くわけです。縦糸と横糸があつて経験全体が地勢に織り込まれていく。そしてその広がり全体が津波に襲われたという事を感じる。こうした身体性を感じられるツアーの場所として興味深いみんなが興味を持ってこられるような場所になりうるのではないかなと改めて思いました。特に、三陸に行くのと違うと思ったのは、こちらは広いので荒浜小学校であるとか冒険広

場の丘の上に立つと、ものすごく遠くまで見えている。普通の想像力があればこの見渡す限りの海全体がせり上がってくるということが鳥肌が立つように感じてもらえるだろうなと思いました。冒険広場から小学校も見えている。避難タワーが眺望の塔みたいに来る。こういう広がりを感じさせることができるのが仙台平野の特質なので、それを上手く使って空間全体を構成していくようなことが必要だろうなと思いました。反面、広いけれどもものすごく大きな箱庭という感じもちょっとある。例えば、これはスコープを超えるかもしれませんが、被災地の中心都市の仙台の責任みたいなことがあるとすると、あの海岸線の先に石巻や三陸海岸がある、あるいは南側に福島があるということを感じる瞬間が少なくとも今日は無かった。その500キロを超える被災地域全体の何か求心力というか、コアになるある役割を果たすとすると、もう一段工夫が必要かもしれません。ローカルなお話がまず勿論大事なのだけれども、それ以上の広がりを感じることができるのかなということも一方で感じました。これは不遜なのかもしれないけれども、でも外国の人が日本に来て「あの時の災害の事をちょっと見てみたい」と思いたって、しかし500キロの旅まではしないとすると、来るのは仙台ですよ。その時なにを感じてもらえるのかなと思いました。もう一つ、時間のことを考えました。ていて荒浜小学校に行きまして、躯体は大丈夫だと。建物は安心しましたが、やはり見て印象的なのは壊れた電灯であったり手すりであったりです。あれは2、3年で壊れてしまうので、それに対してどう考えるのかということになってくるとやはり哲学が要るなという風に思いました。色々なテクニックを使って、今の状態でこれ以上腐らないようにして何か時間を凍りつかせるようにしてずっと見て頂けるようにすることはもしかすると出来るかもしれません。ホルマリンに浸けるとか、はく製にするとか。それはそれで責任ある態度だと思うけれども、それでいつまでもずっと誰でも安心して見られるようにするという一つの思想であると思います。また、普通なら大丈夫なものがこの様に傷んでくるようなことが起きているという事も見せるのであれば、例えばちょっと危ないけれども入る時にサインをしてからヘルメットを被ってもらって「落ちてくるかもしれない」と覚悟してもらい言いながら見てもらうというのも一つの態度としてありうる。それは単純にどんなデザインにする、という事の前に、我々はあれをどう考えるのかということについての思想があるなという風に思いました。そこに、何らかの共有のイメージを持っていないと、ちぐはぐなデザインを集めたようなことになるのではないのでしょうか。まだ答えは分かりませんが、色々なやり方があるという事を技術的には思うけれども、そのベースにこのメモリアル事業の基本的な哲学というのが問われないことにはデザインも始められないなということを感じました。ハードルを自ら上げている感じがしますが。それから、時間のスパン。躯体が大丈夫ですと言ったけれどもどれ位もつといても50年位。しかし「50年だと足りないわけです。全体的な持続時間だけでなく、行けば毎日開いているのか、それとも毎年3月11日だけ開いているのか、20年に1回特別御開帳みたいに見せるのかとか、それでも設計が変わってきますよね。それについて、なるべく沢山のお客様が来て下さることが良いのだというだけでいいのかということころは、まだ曖昧になっている。すごく広い場所を巡る経験の素材としては大変興味ぶかいのだけれども、それをどうデザインするかは根本的な所でまだ腰が定まっていないという風に感じた次第です。

○宮原委員長

ありがとうございました。それでは増田副委員長お願いします。

○増田委員

今日は、10時からお昼過ぎぐらいまで浜まで行って時間切れになってしまいました。という訳で後半の部分はあまり見られていないのですが、本江先生からも今あったように、今回見ていない地域、例えば仙台港の工場地域はどうなったのかという、多分大きなテーマが残っていたり、

これは市域を超えてしまうのですが、復興に苦しんでいる関上の今後のような課題は市内の藤塚地区とどういう風に繋がりを見ていくのか。さらに外国人の方でいえば仙台空港からやってきてこの地域をどう回って、仙台なり、塩釜に向かっていくのかという様な周遊ルートみたいな事を考えると、仙台市だけでは収まらない部分がもうちょっとありそうだなという感じがします。もう一つ、常磐道の開通とも関わっていたりもしますが、恐らく福島に関する視野もどう見るべきかという事についても、この委員会でやるかどうかは別ですが、例えば仙台の駅東地区を降りた時に、仙台から150キロ、200キロ、300キロ位の圏域の実態を仙台駅の周辺でも学べるべきかもしれません。そうすると仙台の内陸とJR駅と地下鉄終点と海岸沿いと将来的につなぐルートとして、地下鉄も含め当面の検討対象にすべきかと思いました。さらに、東北各地からの情報発信を仙台でやりたいという話も出てくると思いますので、それらも吸い上げて連携を取っていくような空間や場所もどこかに必要かなと思います。今回の地域だけで行っても、津波とは関係ありませんが歴史的には、疎水の話、運河の話、水の話なども東部エリアにあるので、それら全体をもう一度掘り起こしつつ、資源化していくべきではないかという気もしました。

○宮原委員長

ありがとうございました。私も少し話をします。今回東部地区を皆さんと一緒に回りました。一つとても印象的なのは、実は一緒に回った皆さんご自身が、日頃震災の復興の現場で色々と活動されている方達なんです。そういった方達が何度も震災の現場に遺構等々ご覧になってもまだまだ発見することと言いますか、気がつくことが沢山あるということで、行く毎にそういった気づきというものが非常に今回の遺構の持っている力と言いますか、特性と言いますか、そういったものに改めて気付かされました。荒浜小や冒険広場の景観も見せて頂きましたけれども、残ったものが点的ではあっても、仙台の東部地区の一つのメモリアルの非常に重要なポイントだというのが今日は各委員の皆さんからのご指摘があった通りで、私も本当にそうだと思います。一方で広い東部地区の中で、仙台市の皆さんからご説明を頂きましたけれども生活を取り戻すための様々の動きというのがこれもまた非常によく見る事ができました。除塩をして終わった田んぼが来年は作付が出来るようになるとか、苗代のハウスが仙台市さんの方で建てられているとか、復興の災害公営住宅もそうですが、これからこうなるといった部分も一方で見る事、説明受ける事ができまして、3.11から今に至る時間の流れの中で非常に多くの人達が努力をされている部分というのも私達は知ることができる。これは非常に価値があることだと思います。ただ、そういった部分は専門の方と一緒ではないと、なかなか気付かなかつたり、私達も理解ができない部分があります。そういった全体的なこと、遺構だけの問題ではなくて、先ほど皆さんが仰っていましたが、エリアの中で今起こっていることをどう上手に説明していくかということであると、やはり行政機関、民間の方達、団体の方達と連携をしてあのエリアをどう説明するか。さっき高橋委員さんも仰っていましたが、上手に色んな方達の知見を組み合わせながらあの地域を見せていくという事が非常に重要で、それはきちっと出来ていると先程本江先生も仰っていた500キロに渡る被災地域の一つのモデルになると思うのです。やはり点ではなくて、面で上手に伝えていく部分で、色んな説明を含めたモデル化というものを目指していくということも一つは視野に入れたらいいのではないかなと思っていました。いずれにしても、今日は朝から仙台市の皆様にはいろいろとセットアップも含めてご準備ありがとうございました。それでは、今日ご参加くださいました委員の大草さんの方から今日皆さんのご意見を伺ってどう感じたかコメントをお願いします。

○大草委員

今日は、残念ながらこちらのツアーには参加出来なかったのですが、今回のスケジュールを見

て、自分が率直に思ったことは、例えば今仙台の中でも自分にとって思い入れがある場所は、例えば蒲生干潟で私達は科学教室をやっていたので、その後はどうなっていたのかなということを感じながら、例えば新聞などを見る機会もあったのですが、どうしても今まで接点がない場所については、なかなか自分の関心が至らなかつたりとか、そのものの状況も分らないこともありまして、そういう意味でなかなか同じ仙台という所で活動している者でも、意外と知らないところを自分自身反省も込めて今回のツアーの工程を見ながら思いました。皆さんからお話を伺って思っていたこととしては、こういった現状が色々災害の結果そのまま残っているものと、そこから更に復興というプロセスでどんどん新しくなっている部分があるかと思うのですが、そういったことをそのまま残っているものも、また復興していくプロセスそのものも後世に伝えていくという観点からみましたら、何かしら学ぶというものにつなげていく作業というのは非常に大事ではないかなという風に思いました。逆にいえば今日の皆様の話を伺いましてこういった震災の跡であったり、もしくは復興していくプロセスそのものが学ぶ資源として非常に価値を持つものではないかなということを感じた次第です。とはいえ、そういったものを、やはり学びの機会につなげていくということは、一つの団体さんではなかなかできないことですので、宮原先生も仰っていたように、さまざまな専門機関の方、もしくは住民の現場の方と色んな方の力を合わせながら作り上げていくという事が非常に大事ではないかなと思いました。逆に言うと作るプロセスそのものも学ぶプロセスであり、後世に残していくプロセスそのものになるのではないかなと皆さんのお話を伺っていて非常に感じました。また、そういったせっかく作った学びというものも、例えば実際の現状に関わっていない方から見たらなかなか接点もないものですので、こういったものはこれから面的につなげていくという意味でも例えば既存にあるような様々なコンテンツ、それは皆さんが仰っていたようにバスであったり地下鉄とか既に皆が使う様な公共機関もありますし、またはサインという話もありましたが、ミュージアム、科学館、博物館とか皆様が学びに行く機関のところさきりげなく学ぶ機会としてあったり、そういう形で既存のものとのどんどんリンクさせながら、その現場で遭わなかった人も学べる接点が作れば、また外から来た人も学べる接点がつくれるような、そういった形でつながりをつくっていくことがとてもいいのではないかなという風に感じました。自分からは以上です。

○宮原委員長

どうもありがとうございました。では大滝委員さんお願いします。

○大滝委員

私も午前中突然会議になってしまって、行けなくなってしまって大変残念だったのですが、それがまた私自身もこの工程を実際に自分で見ている訳ではないので、一度見たいなと思っています。そういう意味では感想程度のことしか言えなくて大変申し訳ないのですが、一つは先程からお話が出ていますが、仙台平野の中というのは他の三陸なんかと比べて同じ復興の動きがあるという話をしても、ぜんぜん違うケースの話がかなり沢山あるのではないのかと私は思っています。面的にも広いという事もそうだと思いますが、被災したという、メモリアルとして残すといっても色んな被害の顔とか、被災地の顔とかメモリアルの顔というのが多彩多様であってそういうものを面的な景観の中で見ることができるというのは仙台平野をおいて今回の大きな500キロの被災地の中でそんなに沢山ないんじゃないかと思えます。これをどういう風に生かしていくのかという視点は非常に重要だと思いますし、地下鉄東西線を含めてつなぐという事もありますし、つなぎ方というのも単なるインフラをつないでいくということだけではなくて、非常に多様多彩な顔をもっているというのを仙台市民もそうですし、外から入ってきた人達にどういう風に実感してもらうということになるのか、そういう視点というのがすごく求められているのではないかとい

うのが第1点です。第2点は他方で仙台平野は、先ほどからお話があったようにこっちの方が私の専門だと思いますが、新しい産業とか雇用とか、新しい企業というのが出てくる。その被災地の中の最大の発信地になっていると思うんですね。そういうものが仙台平野の中で共存しているという事を私はもうちょっとしっかり考えてみる必要があるんじゃないかと。どうしてもこういう行政の会議の中だと、復興メモリアルは復興メモリアル、被災地に対する対応は対応、産業は産業という形になるのですが、実際に私達が仙台平野の中に入るとそれをトータルとしてみるという事があると思うんですね。復興の姿を映し出すという鏡になっているだけではなくて、多分この後色々な新しい雇用とか産業を起こしてくる人達が外部からも入ってくるということが、かなり長い期間起こって、そこから新しいものを作り出していくというか、そういうイノベーションの拠点にもなっているということと、そういう人達も含めて被災地の中でこういった復興メモリアルを見るという事はそれ自身がすごく意味深いことではないかな。何かメモリアルを孤立させて、ツーリズムの一貫としてそれを見て頂くとか、子ども達にそういうものを見て教育するという側面もとても大事だと思うんですけども、そうではない、側面も実現できるというのは、やはり仙台平野ならではの、あるいは仙台市でなければ出来ないのか。つまり復興しているからいけいけどんどんでやっていくという事だけではなくて、そうではないものも一緒に仙台に来れば我々は見ることも出来るし、感じることも出来るし、体感することも出来るし、子ども達に伝えていくことも出来るというそういうフェーズをそうやって作っていったらいいのか、とても難しい話ですが、そういうものがあって然るべきではないかというのが2つ目の感想です。それから3つ目は、たまたま真ん中のところに六丁目農園というのがあって、この会社を私はとても応援していて、ご存じの通り障害のある方がお仕事をされているという。多分工程上ここを選ばれたというのもあると思うのですが、こういう所をツーリズムの拠点として選んでいるという事はそれ自身が意味があるという事ではないかと私は思うのですね。被災地のメモリアルを見る、それから新しい産業が起こっているのを見る、障害のある方も含めてその人達が自立できる様なレストランとか農商工連携の普段を見るという、こういう事も私はすごく意味深いことだと思っています。何か仙台で発信していくということを考える上でとても重要な要素の一つではないかと思っています。そういうものをどうやって、もう少し多様性を持った形でメモリアルを考えていったらいいのかということを考えるととてもいいヒント、いい工程になっていたんじゃないかなというのが私の感想です。本当にそうかは知りませんが、そこまで仙台市の方が企画されようと思ってやっていたのかどうかもよく分かりませんが、ざっと見た印象でそういうことがあってということなんです。3つ目は感想的な話です。以上です。

○宮原委員長

どうもありがとうございました。六丁目農園は私の方で提案させてもらって、是非皆さんに見て頂きたいと思いましたので。それでは、次に間庭委員さんお願いします。

○間庭委員

残念ながら今回は見れなかったのですが、感想をうかがって被災現地におけるメモリアルの考え方、在り様という事が一つありますね。その時に私どもが考えると蟻の目を見た考え方と、もう少し東日本大震災という大きな意味での捉え方でどのように表すかという視点があると思うのです。いろんな幅広く考えた場合に、例えば小さな子どもを持っている親の方と話をする機会があると、正直言って仙台湾の向いが福島原発があって、実際にラジオとか電波、テレビがどんどん相互に行き交っているような場所で、海流的にも関係が非常にあるところなので非常にナーバスになっている方が多いんですね。そういった時に蟻の目を見た現地における在り様ともう一つ東日本大震災という大きな目で捉えた三陸から福島の浜の方まで広く捉えた視点というのを持っ

た上で、被災現地のモニュメントをどう表すかというのを今感想を伺っていて思いました。もう一つは、全く違う視点で、広域な震災だった故に、仙台の都心部エリアにおいて今回のメモリアルをどう表すかという、今日行かれた所におけるものと、都心エリアにおけるメモリアルをどう表すかという2つあるのかなということの前々から思っていたのと、今日皆さんの感想を聞いて思いました。テーマとしてその様な捉え方をした方がいいのではないかなと。以上です。

○宮原委員長

どうもありがとうございました。これで皆さんの方から一通りお話を伺いました。今回この議事につきましてはそろそろ終わりにしまして、次の議事に移りたいと思います。それでは(2)のその他ということになります。事務局から何かございますか。

○事務局(梅内室長)

資料2を用意してございますが、次年度ですね。今日もご覧頂きました東部地域における緑の復興、貞山運河の利活用、震災アーカイブの在り方、そして震災モニュメント、震災遺構保存等について、先ほど本江委員の方からもありましたが、今年度6回委員会がございまして様々委員の皆様からご意見を頂いたところでございますので、それに対して市側としてどういったコンセプト、只今のありましたように地域なりその事業だけではなくて、どういう風に展開していくかというのを少しとりまとめながら、また地域の皆様の方にも具体的なご説明しながら進めていくことが必要でございます。今日見て頂きました通り復興公営住宅にしましても、集団移転住宅団地につきましても様々な工事が進んでおりますので、そういうのが進まないとなかなか地域の皆様と具体的なご議論が難しいといった事情もございまして。今でも代表の方とは意見交換をしておりますが、少し待ってもらった方がいいのではないかというご意見もあって、半年以上そちらを止めておりますが、新年度そういった動きも含めながら次年度は委員会につきましては、大体四半期に1度かそれ位のペースになるうかと思っておりますが、こちらの方の考えを少しまとめながら、またその間各位の皆様から別にご意見も伺いながら、今度はこちらの方の進め方をまとめ、あるいは地域の皆様の方に考え方を示して、そのご報告をこの委員会の方にさせて頂くといったような形でメモリアル全体の事業を具体的に進めて参りたいと思っております。今日1日、本当に長時間お付き合いいただきましたけれども、委員の皆様から大変興味深いという沢山のご意見を頂きまして、私どもも仙台の沢山の震災の関係でメモリアルとして他地域の皆様を含めて頂くべきものが多いと思っておりますので、こういったものをどうやってつないでいくかとか、あるいは植樹等をする事によってどういう風に育てていくかという様な事を次年度考えながらまた委員会の方にもご報告をさせて頂きたいと思っております。事務局からは以上でございます。

○宮原委員長

ありがとうございました。次年度に向けてということですが、何か皆さんの方からご意見ございますか。よろしゅうございますでしょうか。それでは、本日は今年度最後の検討委員会ということになります。奥山市長より今年度のまとめとして。実は、毎回委員会でご意見を頂いておりますが、私達も大変うれしく思いますが、今回もご発言をお願いしたいと思います。

○奥山市長

今日は長時間に1日を使って貴重な年度末にありがとうございました。現地をご覧になるということは、それぞれご自身でやっていらっしゃるんだと思うのですが、改めてこれだけの長い時間をかけてご覧頂いたという事の実感の端々が、今日のお戻りになられてからのこの委員会のご発言にあったように思います。やはり一番私もその通りだなと受け止めさせて頂きますのは、仙台におけるメモリアル、もしくは震災遺構というものが単純に何かとてもすごいものが一点豪華主義であるからそれを見て震災のすごさを受け止める教訓としましょう。安易で非常に単純す

ざるかもしれない狙いとかではなくて、やはり広さもそうでしょうし、意味の持つ多様性それをしっかりと掘り下げて、そこに我々の思考が届いて、視野が届いていけない限り仙台の震災のメモリアルとしては従前のものではないのだというご意見がどの委員の方からもご発言があったということは、現地をご覧になった上で、またお考えの中でも非常に重要な点で、我々そのところをしっかりと事務局としても言語化出来るかどうかという所に能力、力を試されている部分があるかと思しますので、来年度の計画の中で少しお時間を頂く部分は改めて我々自身も多様化、多様性をどう深められるかという課題についてしっかりと我々なりの宿題を果たしながら、また、積極的なご意見を頂いてこの会議がスムーズに運営できる様に来年度も努めていきたいと思します。今年度は本当に6回まで、やや駆け足の部分も在りながら本当のお忙しい委員の皆様これだけ貴重なご提言を広い分野にわたって頂いたことに感謝申し上げたいと思します。被災と復興と両睨み、両県にまで視野が届くように大変な宿題を頂いたことに呆然としているところでございます。ありがとうございます。

○宮原委員長

どうもありがとうございました。それでは本日の議題は以上で終了ということになります。先程も事務局からご説明がありましたが、当委員会は来年度も継続して開催していくということで、また引き続き活発な議論をしていきたと思します。特に今日茂木委員からもご発言がありました。やはり遺構に関する、メモリアルに関する哲学的な部分というか、大きな方針という所は来年度も是非私達も委員会としてきちんと議論して、この多様なということころで大滝先生からご指摘ありました。様々なものを含んだ中で、仙台というある種遺構の話だけではなくて、仙台市のアイデンティティと言いますか、位置づけと言いますか、そういうのがメモリアルの方から議論されてくる部分になのだろうかという風に思しますので、是非来年度も皆様のご協力をお願いしたいと思します。また、何か皆様の方からご意見がありましたら、後日事務局の方にご連絡をお願いしたいと思します。最後に、事務局から何か連絡事項ございますか。

○事務局（梅内室長）

ございません。

○宮原委員長

ありがとうございます。今日は、年度末という事でこちらの委員会の色々な事務局のメンバーの方もご移動される方もいらっしゃる、本当に私達としても色々な資料の準備から、地域の方のインタビュー等々、それから今日のフィールドへのセットアップ、本当に丁寧にご対応くださりましてありがとうございました。また、今度新しく来られる方も是非よろしくお願ひしたいと思しますが、やはり今日も委員会のメンバーは民間の方、若い人、それから学校関係とかいろんな主体の人達で話し合っているながら、尚且つ仙台市の皆さんとも市長さんも含めて近しくお話が出来るといこういった場が非常に貴重だと思っております。時間は限られていますが、皆さんからまた来年も率直なご意見を頂いて、この会の中から仙台市としてのメモリアルが出てこればいいなという風に思っております。本当に皆さんありがとうございます。それでは以上をもちまして本日の委員会を終了したいと思します。今日は長い時間ありがとうございました。

以上、議事録の内容につきまして、すべて相違ありません。

平成26年 4月30日

議事録署名者

(委員長) 宮原 育子

(委員) 大草 芳江

